

【背景と目指す姿】

- 足利地区については水田依存型の経営体が多く、米の直接支払交付金の廃止による所得減少への対応が急務となっている。
- このことから、**機械化一貫体系が可能な露地野菜(キャベツ・ねぎ)の導入**により、土地利用型園芸の産地づくりを進める。
- また**販路については、安定した販売単価と調整作業の省力化を目指し、近隣食品加工業者や業務向け需要業者との契約販売**を想定している。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):1.9ha ⇒ 目標(令和2(2020)年度):11.2ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作農家向けセミナー・講習会の開催、JA広報誌の掲載による担い手の意識高揚 ・足利市、安足農業振興事務所と連携した稲作農家の経営意向調査と経営分析・設計の実施 ・農地中間管理事業等を活用した担い手への農地集積や畦畔除去による野菜作付農地の集約化
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模産地化に向けた機械化一貫体系の実証試験 ・農家パートの募集・仲介を実施
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・契約取引専門家等からの契約取引のノウハウの習得 ・県から提供された食品企業の需要情報の活用や商談会への積極的な出展による販路開拓(特に運送コストが削減可能な県内食品企業)



加工・業務用野菜産地づくり
情報交換会(足利市の部)



産地と食品加工企業との
マッチング支援